

ごみを減らして限りある資源を活用しましょう

西脇市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画を策定



私たちは日々の暮らしや事業活動で、多くのごみを出しています。ごみを出さず、出さないようにすることや、出たごみをできる限り資源として活用することが大切です。市では、「燃やすから生かす」という考えの下、多可町との1市1町の枠組みで、平成36年度の新ごみ処理施設の稼働を目指して準備を進めています。

このような中、ごみの減量・資源化に向け、市民、事業者、行政が共に取り組んでいくための指針として、「西脇市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」を2月に策定しました。

■問合せ 環境課（市役所内線392）

計画の内容

長期的な視点でごみを出さないようにし、ごみの最終処分までの適正な処理や、資源化を進めるための方向性を定めています。

計画期間

計画期間は平成30年度から平成41年度までの12年間です。

基本理念

ともに進める「ごみ減量」と「資源循環」をもったいなーの心を行動へ！
燃やすごみや埋め立てるごみ

みを「ゼロ」に近づける社会を目指して、キーワードである3つの「R」（リデュース＝発生抑制、リユース＝再利用、リサイクル＝再生利用）に取り組みます。そのうち、2R「発生抑制」と「再利用」は特に重要な取り組みであることから、重点的に実施していくこととします。

基本計画での目標数値

- **一人一日あたりのごみの排出量を5.9%減**
市民一人が一日に出すごみの量を平成27年度の696gから平成41年度に655gまで減らす（集団回収を除く）。
- **資源化率を30.3ポイント増**
資源化率を平成27年度の19.7%から平成41年度に50%まで増やす。
- **一人一日当たりの燃やすごみの量を13.7%減**
一日に燃やす一人あたりのごみの量を平成27年度の628gから平成41年度に542gまで減らす。
- **最終処分量を43.0%減**
埋め立て処分をするごみの量を平成27年度の1,204 tから平成41年度に686 tまで減らす。

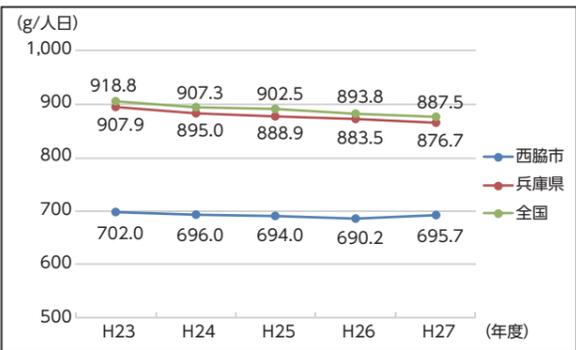
ごみの減量・資源化へ

自然に恵まれた持続可能な「西脇」を次世代につないでいくために、市民と事業者、行政が共に知恵と力を出し合いながら、安全でより効率的なごみ処理に取り組んでいくこととなります。

◆ごみの排出量

市では市民や事業者の協力により、ごみの減量・資源化に取り組んできました。その結果、ごみの排出量は減少傾向にあり、平成27年度の一人一日あたりのごみの排出量（集団回収を除く）は、県下で6番目に少ない696gまで減

ごみの排出量の推移（一人が一日に排出する量／集団回収除く）



計画の基本理念と基本方針

◆基本理念

ともに進める「ごみ減量」と「資源循環」
～もったいない！の心を行動へ～

◆基本方針と主な取り組み

「もったいない精神」による発生抑制と再利用の推進

台所ごみの水切り、マイバッグ持参運動

資源循環に向けた分別の徹底による再生利用の推進

段ボールコンポストの普及促進、事業系ごみの資源化推進

ごみの減量・資源化を考え、行動する人づくり

環境教育の実施、出前講座「3R・ごみ学習」の開催

ごみの減量・資源化を促す充実した情報の発信

必要な情報をタイミングよく分かりやすく発信

みどり園等と進める適正かつ効率的なごみ処理体制の再構築

有料指定袋制度の継続実施、不法投棄監視パトロールの実施

ごみダイエット通信

■環境課（☎22-3111）

第12話 ～イベントのごみ減量に向けて～

リユース食器を活用

2月25日に開催した「緑花祭&環境・健康ふれあいまつり」では、エコネットに「リユース食器」の活用に取り組みました。リユース食器とは、洗って繰り返し使用（リユース）できる食器のことです。イベントのごみの減量策として、市のイベントで初めて使用しました。これまで飲食ブースでは、使い捨て容器で飲食物を提供しており、飲食後に全てごみとなっていました。



イベントの飲食ブースでリユース食器を使用

普段の生活で「ごみの減量」に取り組みましょう

「買い物時にレジ袋をもらわずに、マイバックを使う」「外出時に水筒にお茶を入れて持参する」など、普段の生活でもさまざまな方法でごみを減らすことができます。できることから実践して、ごみの減量に取り組ましましょう。